

B etween アンテナ

大学情報をまとめて紹介

東京薬科大学

生命科学部に3つの新プログラム開設

東京薬科大学は、生命科学部に学科を横断して履修できる3プログラムを開設した。「アントレプレナー養成プログラム」は、スタートアップやバイオテックの基礎知識を修得し、バイオ産業で新ビジネスを起こす人材を育成する。「グローバルキャリアプログラム」は、地球規模の広い視野と関心を喚起し、文化の多様性や地域の特質などに対応できる素養を育てる。「データサイエンスプログラム」は、「AI戦略2019」の第2段階である「応用基礎」レベルの知識・技術を修得し、生命科学に特化したゲノム・メタゲノム情報の利用や医療ビッグデータを活用できる人材を養成する。いずれもSociety 5.0社会において、主に生命科学分野で活躍する人材の育成が狙いだ。

帝塚山学院大学+池坊短期大学

伝統文化の発展をめざす包括連携協定締結

帝塚山学院大学と池坊短期大学は、2021年1月、包括連携協定を締結した。両大学の特性を生かした各種の事業に共同して取り組むことで、優れた人材の育成と地域社会の発展に貢献するのが目的だ。帝塚山学院大学の津田謹輔学長と池坊短期大学の高杉巴彦学長が懇談した際に、日本の伝統文化をもっと発展させていきたいという願いを共有したことがきっかけで、今回の協定へと進展したという。

学生や教職員の交流、国際交流の共同推進、単位互換による科目履修のほか、華道家元池坊と両大学の三者連携による「いけばな」の教育事業や指導者育成も行う。帝塚山学院大学では2021年度の共通教育科目として「伝統文化演習」を開講し、指導は華道家元池坊の講師が担当する。



池坊短期大学・高杉理事長・学長(左)と
帝塚山学院大学・津田学長

産業能率大学

スマホ持ち込み可能な入学者選抜を導入

産業能率大学は、2月17日に実施した2021年度入学者選抜試験の「一般選抜・未来構想方式」において、会場にスマートフォンなどの持ち込みが可能な試験形態を採用した。知識だけでなく、知識や経験を活用・応用する思考力を測ることで、地域の課題に問題意識を持ち、将来「起業家」「組織のリーダー」となり、課題解決の担い手となる人材を求める。

試験は、大学入学共通テスト、事前記述課題のほか、試験会場で「未来構想レポート」として、近未来のある地域の社会状況のシナリオを読み、対策を考え、レポートにまとめる。スマートフォン、タブレット、ノートPC、電子辞書のいずれか1台を持ち込み、検索が可能。ただし、通話、メール、SNSによる外部との連絡は不正行為となる。同大学によるとスマートフォンやタブレットの持ち込み可能な入学試験は全国初という。

開志専門職大学

大学ベンチャー育成の投資ファンドを設立

開志専門職大学は、2021年度に同大学イノベーション力研究所創業支援センターの起業家育成プログラム拡充を目的に、事業創造キャピタル株式会社と連携して、大学ベンチャー投資ファンド「開志エンジェルファンド1号」を設立する。

事業創造学部、情報学部、アニメ・マンガ学部の学生に起業を支援するための投資ファンドで、起業経験を持つ教員が意欲のある学生をアイデア段階からベンチャー企業設立、成長まで実践的に指導、育成する。ファンドは、個人投資家などから1口100万円単位で募集し、総額は1億円、運用期間は10年。同大学によると投資ファンドを活用して学生の起業支援を行うしくみは日本初の試みになるという。

武庫川女子大学・短期大学部

学生が80周年記念誌の分冊を制作

2020年に発刊された「武庫川学院80年史」は本編(686ページ)と、武庫川女子大学と短期大学部の学生が制作した「わたしたちの80年史」(161ページ)との分冊になっている。学生版を制作したのは、2016年度から4年間開講された大学・短期大学部の共通教育科目「本を編む」の履修者、延べ197人。授業で学んだ手法を実践する形で関係者へのインタビューや調査を実施し、原稿をまとめた。イラスト満載の「武庫女80年スゴロク」やインスタ映えする学内スポットなど、学生らしい感性と好奇心が随所に生かされ、本編と対をなして学院の歴史と魅力を立体的に伝えている。指導にあたった教員は「制作を通して一人ひとりの学院への誇りと帰属意識が高まるのを感じた」と振り返った。